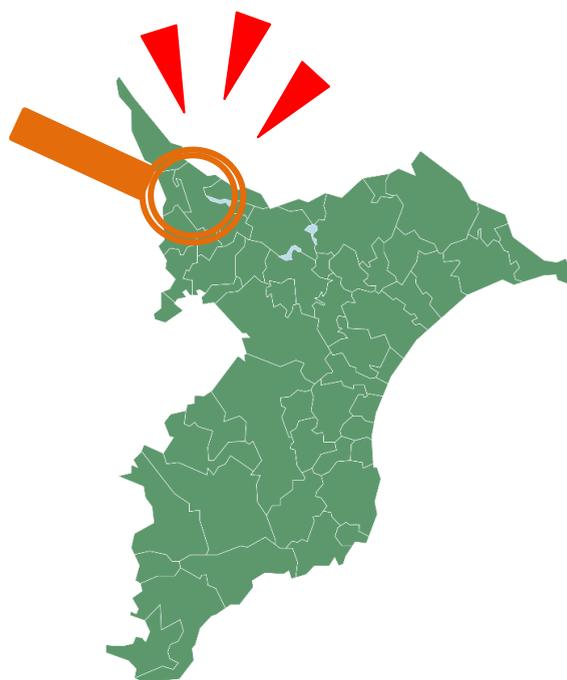


2022・6

# 柏の景気情報

令和4（2022）年6月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和4年6月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

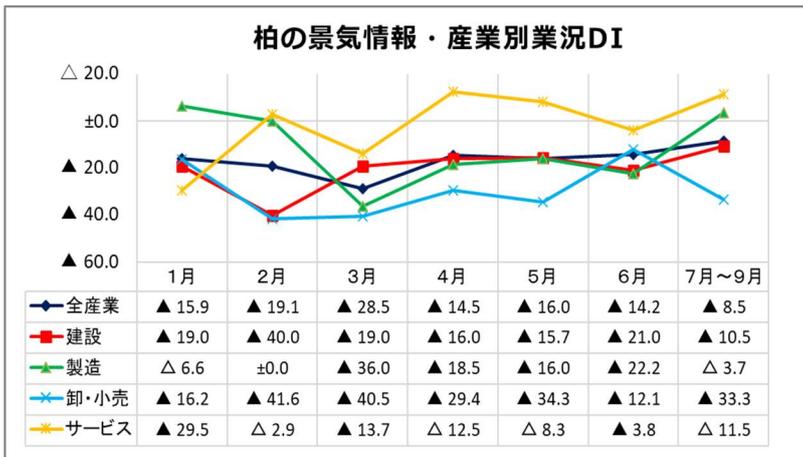
調査期間: 令和4年6月21日～7月4日 調査対象: 柏市内151事業所及び組合にヒアリング、回答数105

### 卸・小売業が大幅に改善し、全産業DIは改善。先行きも回復の見方だが、コスト増加に危機感は強い

6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.2(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が1.8ポイント縮小した。

DI値が大幅に改善した卸・小売業では、値上げ前の買い込みや、テレワークの減少、外出気運の高まりによるスーツ等の外出着、夏物衣料が好調とのコメントが寄せられた。また、業種を問わず、原材料、燃料等の高騰は続いており、価格転嫁の実施や遅れ、取引先との調整について多くのコメントが寄せられた。

先行きDI値は、▲8.5(今月比+5.7)と回復の見方だが、各種コストの増加への危機感は強い。また、物価高による消費欲の低下に懸念あり。



## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「仕事量が少ない。材料の高騰と職人不足が問題」(土木工事)、「若い従業員の定着は難しい。長年従事している従業員の年齢は上がるばかりだが、仕事はできるので完成の日になりに支障はない。7月に4回目の仕入値上げが予定され、利益に影響が出る」(とび)、「畳縁バッグのベイスネットショップを立ち上げて10か月。ベイスからの購入はゼロだが、問合せメールや電話から商談が成立。ネット通販がカタログの機能を果たしている」(畳)



製造業

「仕入単価の上昇分すべての価格転嫁は顧客に理解してもらえない。受注は増加しているが、仕入も増加し資金繰りに苦戦」(金属製品)、「海外受注が堅調で、円安の影響で今後も需要は増えそう」(機械・同部品)、「半導体不足、上海ロックダウンの影響で、サプライチェーンの断絶、受注ストップ、減産に追い込まれている」(金属素形材製品)、「売上は上向いたが、原燃料の高騰で利益は好転せず。生産部門の人手不足で残業増加」(鉄鋼)、「コロナによる営業制限は収まりつつあり、リモートで不足していた対面営業に注力し、情報収集の改善を図りたい」(化学工業)、「コロナ当初の緊急事態宣言で車検の3か月延長があったため、4、5月の車検部品の売上が減少。中国の生産・物流の混乱で、一部の部品が欠品増」(自動車付属品)、「コロナでサークル活動が停止、会食がほぼゼロになり、社内に閉塞感が漂っている。再開させるタイミングが難しい」(業務用機械器具)



卸・小売業

「原材料高騰で価格を上げたが、これ以上の値上げは厳しく頭が痛い」(洋菓子店)、「父の日が予想より良かった」(洋菓子店)、「コロナ規制の緩和でリモートからの戻りが影響し、スーツ等外出着の需要が回復。一方、値上がりニュースで食物販は買い控え傾向」(百貨店)、「原材料高騰、商品遅延でテナントのファッションや食関連の売上が不安定。テナント経営が本回復せず、積極的な投資に繋がらない」(各種商品小売)、「値上げ前の買い込みが見られ、今後の買い控えが心配」(各種商品小売)、「気温上昇で、顧客動向は午前と夕方以降に分断。夏物衣料は好調。外食にシフトした分、食品の客数が伸び悩む」(大型小売店)、「市場売上は地元飲食店の方に限られ、流通の変化を感じる。量販店商品の拡充、輸出、ネット卸売などが増加し、売上好調。包装資材や送料の値上げで、一部商品は値上げせざるを得ない」(食料卸売)、「飲食店向けの卸売が回復。この2年はECサイト需要が激増で、実店舗の客足は減少していた。仕入先である農家は肥料、燃料の値上げを大きく受け、仕入値は上昇するだろう」(青果小売)、「前年比プラスで終われそう。上海ロックダウンの影響が早くなくなっしてほしい」(産業機械器具卸売)



サービス業

「仕入価格、人件費が急上昇で収益に影響」(日本料理)、「原価上昇に伴い、メニューを見直し。猛暑で来店客が減るので、駅前デパートに短期出店、キャンプ場への卸売を増加して調整」(飲食店)、「半年で全ての仕入が2、3度値上げ。価格転嫁したいがお客様の減少が心配」(食堂・レストラン)、「売却依頼の問合せは堅調。購入への反響は減少。不動産価額が値上がり、今後に懸念」(不動産管理)、「固定金利の更新で、じわり上昇」(不動産賃貸・管理)、「夏期講習は、親の収入の影響か、全科目受講とほぼ受講しない生徒で極端。新規入会者の動きはコロナ前より鈍い」(学習塾)、「光熱費上昇、物価高、猛暑が悪影響。ここ2年間はコロナバブルで売上拡大。今年もコロナ前比で110～115%の見込み」(ゴルフ練習場)、「コロナで増加した債務処理が最大の問題」(各種学校)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲20.3で柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸・小売業、サービス業であり、卸・小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.2	 ▲ 21.0	 ▲ 22.2	 ▲ 12.1	 ▲ 3.8
CCI-LOBO	 ▲ 20.3	 ▲ 29.3	 ▲ 19.8	 ▲ 32.2	 ▲ 4.4
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.5	 ▲ 21.0	 ▲ 22.2	 6.0	 ▲ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 8.5	 ▲ 22.9	 ▲ 5.7	 ▲ 18.4	 5.6
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.7	 ▲ 36.8	 ▲ 29.6	 ▲ 15.1	 ▲ 23.0
CCI-LOBO	 ▲ 26.8	 ▲ 38.3	 ▲ 30.8	 ▲ 32.2	 ▲ 13.8
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 69.5	 ▲ 47.3	 ▲ 100.0	 ▲ 72.7	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 74.0	 ▲ 85.2	 ▲ 83.8	 ▲ 68.3	 ▲ 59.8
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.3	 10.5	 14.8	 9.0	 15.3
CCI-LOBO	 16.3	 24.6	 9.7	 12.6	 21.3
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 19.0	 ▲ 26.3	 ▲ 33.3	 ▲ 21.2	 3.8
CCI-LOBO	 ▲ 15.6	 ▲ 9.3	 ▲ 14.8	 ▲ 24.7	 ▲ 13.4

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：2022年6月15日～21日

調査対象：全国の332商工会議所が2,589企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DI、コスト増が重荷となり、ほぼ横ばい。先行きは物価高の長期化懸念から厳しい見方

6月の全産業合計の業況DIは、▲20.3と、前月から+0.1ポイントの改善。新型コロナウイルスの沈静化と需要喚起策により飲食・宿泊関連のサービス業で業況が改善、住宅関連の民間工事が堅調に推移した建設業でも業況が改善した。活動制限の緩和から3カ月が経過し、日常生活への回復が見られる一方、資源・資材価格の高騰継続や資材供給の乱れ、円安による輸入物価の上昇等により、小売業では業況が横ばいに留まり、製造業や卸売業では業況が悪化に転じた。業種を問わず、コスト増が続いていることに加え、それに見合うだけの価格転嫁は依然として行われていない。中小企業の景況感もコスト増が重荷となり、ほぼ横ばいとなった。

先行きについては、先行き見通しDIが▲20.8(今月比▲0.5ポイント)と悪

化を見込む。需要喚起策の拡大や水際対策の緩和に伴う外国人観光客の受け入れ再開で、売上回復への期待感が高まる一方、物価高による消費マインドの低下を危惧する声がサービス業や小売業で多く聞かれた。円安の急伸や資源・資材価格の高騰によって増加したコストに対する価格転嫁の遅れや、資材供給の乱れなど中小企業の収益回復の足かせ要因は多く、先行きも、物価高の長期化懸念から、厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業、卸売業は悪化、小売業、サービス業は横ばい、建設業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「建設資材・燃料価格の上昇によるコスト増や設備機器の納期遅れ欠品が続いているものの、前年度と比較すると住宅建設の案件が増えており、売上は回復基調にある」(一般工事業)、「受注数増加が見込まれており、建築資材の価格上昇が落ち着けば、売上・採算ともに改善が期待される」(建築工事業)

【製造業】「新型コロナウイルスの影響はそれほど受けず、今までは営業を行っていた。しかし、資源や資材等の価格高騰の継続が、大きなダメージになっている。増加したコスト分全てを販売価格へ転嫁はできず、採算悪化が続いている」(食料品製造業)、「国際的な物流の混乱や資源・資材価格の高騰は新たな経営課題であり、業績を圧迫している」(民生用電気機械製造業)

【卸売業】「物価上昇や円安の急伸など、コロナとは別のリスクが新たに発生。増加したコストを販売価格へ100%転嫁できず、価格転嫁対応が急務である」(建築材料卸売業)、「包装資材の価格高騰が続いている。原材料価格も徐々に上がってきており、値上げせざるを得ない状況に追い込まれている」(食料・飲料卸売業)

【小売業】「行動制限の緩和で人の動きも増えてきており、客足は増加傾向にある。一方で、仕入れ単価や光熱費の上昇が収益圧迫の要因になっている」(百貨店)、「イベントや展示会が再開されているため、積極的に出店し、売上改善に努めている。今後は物価高の影響で、消費者の購買意欲が低下していくことを危惧している」(文具小売業)

【サービス業】「新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いているため、旅行の申し込み数は増加が続いている。今後は需要喚起策の拡大も見込まれているため、業況がさらに改善することが期待される」(旅行業)、「光熱費や食材等の価格上昇の影響はあるが、観光需要は戻りつつあり、宿泊客も堅調に推移している。インバウンド需要にも期待している」(宿泊業)

### 全国・産業別業況DIの推移

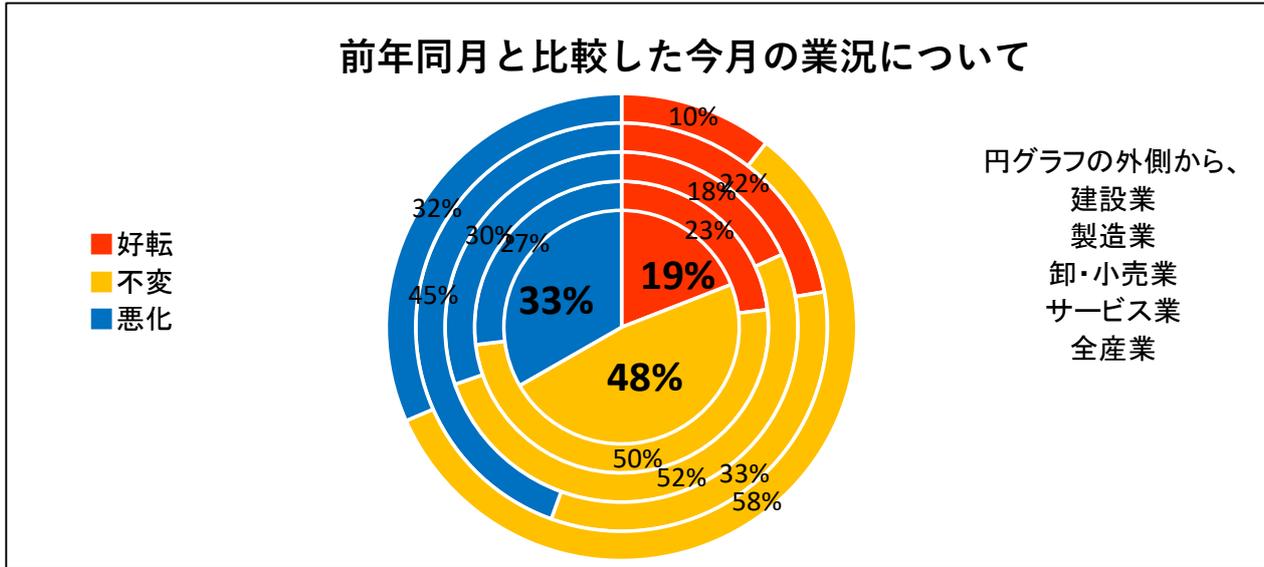
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲18.2	▲21.5	▲6.9	▲18.1	▲26.7	▲20.4
2月	▲33.9	▲22.9	▲21.1	▲38.2	▲43.8	▲43.2
3月	▲32.7	▲23.6	▲25.0	▲33.3	▲40.9	▲39.0
4月	▲25.7	▲27.0	▲17.0	▲28.3	▲39.5	▲21.1
5月	▲20.4	▲31.3	▲15.4	▲20.2	▲31.8	▲9.3
6月	▲20.3	▲29.3	▲19.8	▲22.0	▲32.2	▲4.4
見通し	▲20.8	▲24.6	▲19.4	▲24.5	▲31.7	▲9.2

# 令和4年（2022年）6月の動向

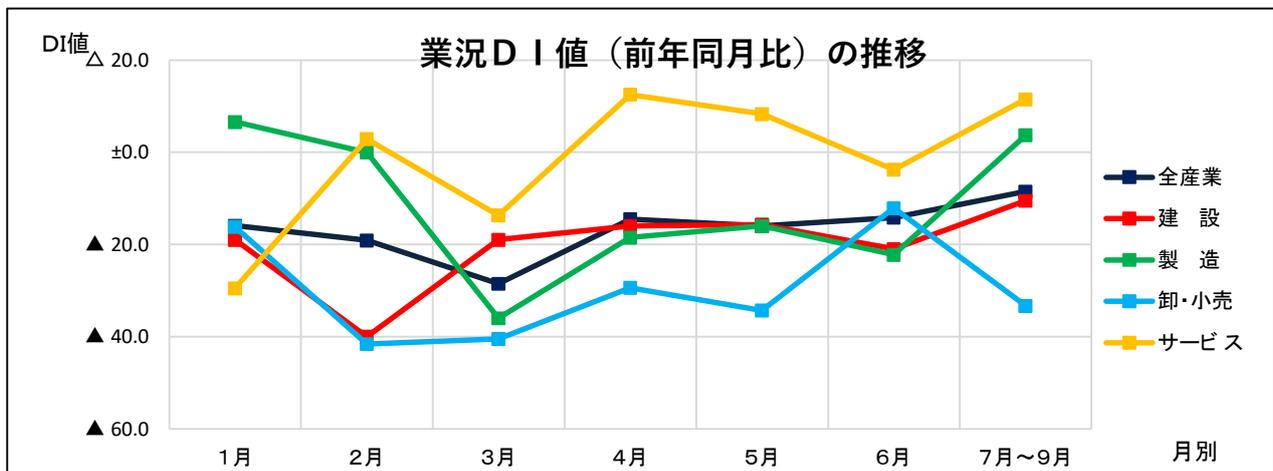
## 【業況について】

- 6月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲14.2（前月水準▲16.0）となり、マイナス幅が1.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（7月から9月）の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5（前月水準▲14.0）となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小する見通しである。



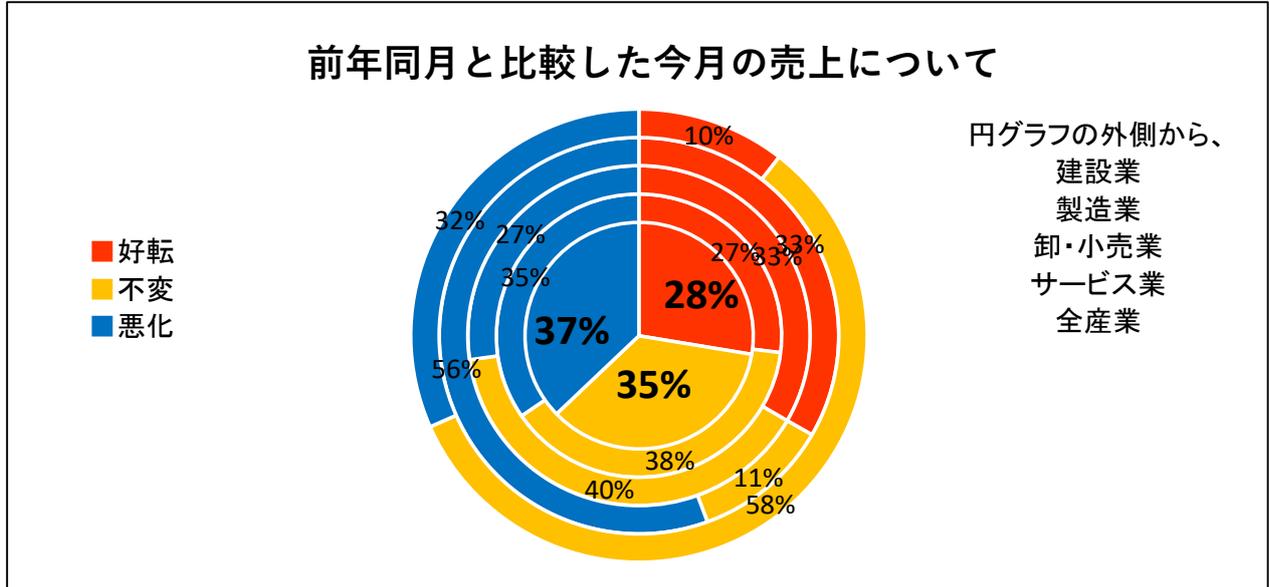
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月～9月（6月～8月）
全産業	▲15.9	▲19.1	▲28.5	▲14.5	▲16.0	▲14.2	▲8.5（▲14.0）
建設	▲19.0	▲40.0	▲19.0	▲16.0	▲15.7	▲21.0	▲10.5（▲15.7）
製造	△6.6	±0.0	▲36.0	▲18.5	▲16.0	▲22.2	△3.7（▲8.0）
卸・小売	▲16.2	▲41.6	▲40.5	▲29.4	▲34.3	▲12.1	▲33.3（▲43.7）
サービス	▲29.5	△2.9	▲13.7	△12.5	△8.3	▲3.8	△11.5（△20.8）



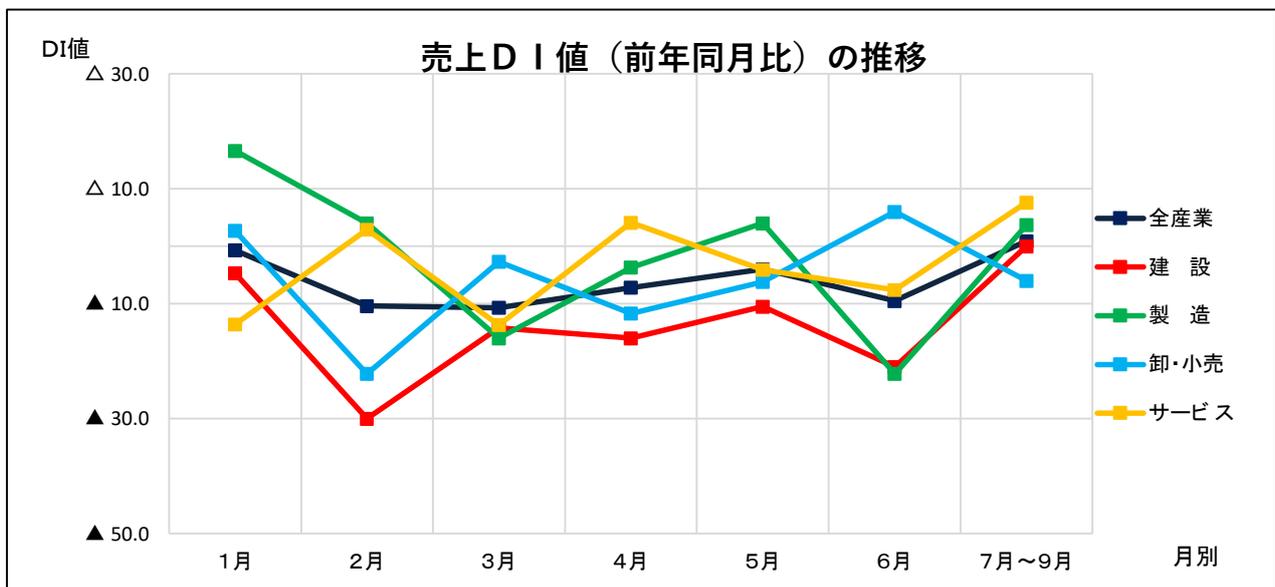
【売上について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.5(前月水準▲4.0)となり、マイナス幅が5.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△0.9(前月水準▲8.0)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小する見通しである。



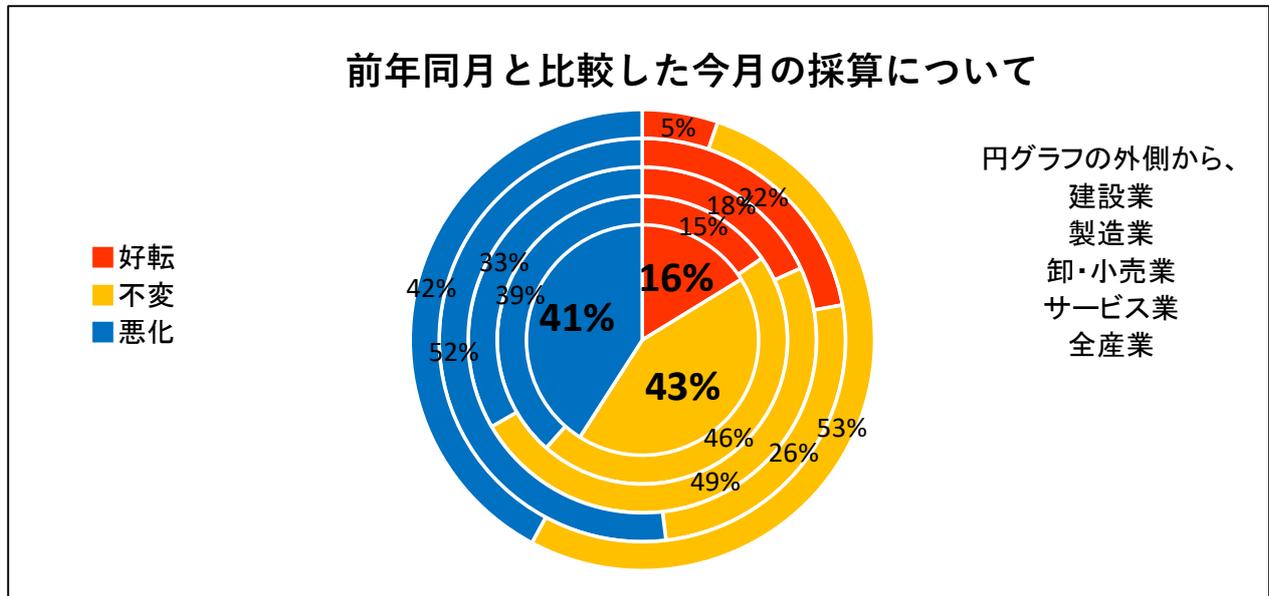
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月(6月~8月)
全産業	▲0.7	▲10.4	▲10.7	▲7.2	▲4.0	▲9.5	△0.9(▲8.0)
建設	▲4.7	▲30.0	▲14.2	▲16.0	▲10.5	▲21.0	±0.0(▲10.5)
製造	△16.6	△4.0	▲16.0	▲3.7	△4.0	▲22.2	△3.7(▲4.0)
卸・小売	△2.7	▲22.2	▲2.7	▲11.7	▲6.2	△6.0	▲6.0(▲25.0)
サービス	▲13.6	△2.9	▲13.7	△4.1	▲4.1	▲7.6	△7.6(△12.5)



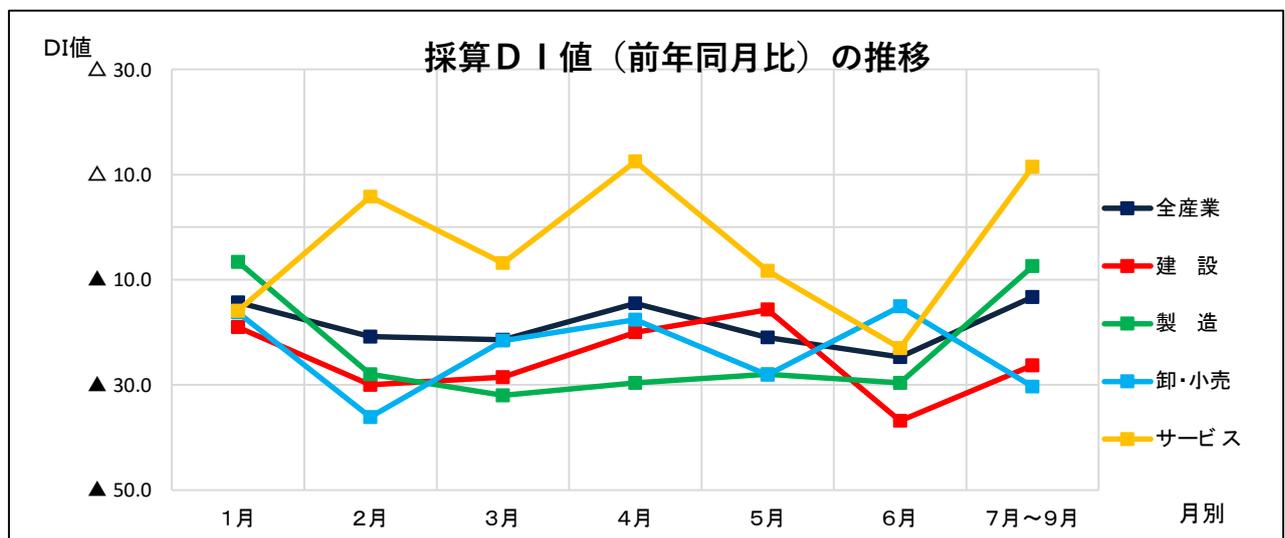
【採算について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.7(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が3.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.3(前月水準▲19.0)であり、マイナス幅が5.7ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

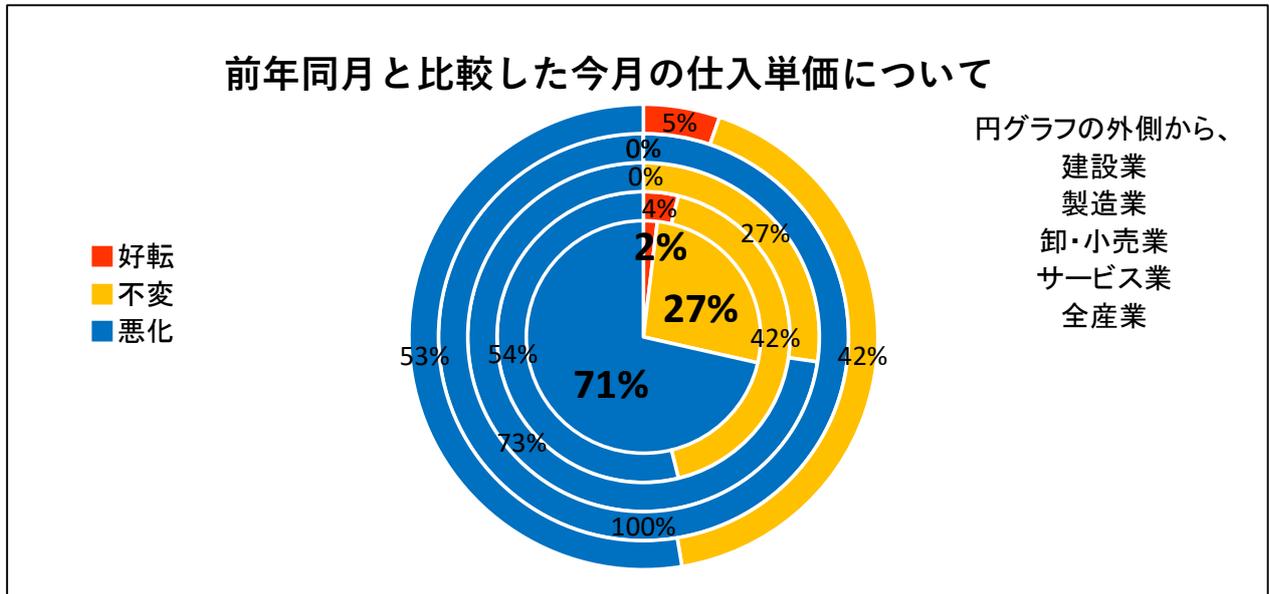
	令和4年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月(6月~8月)
全産業	▲14.3	▲20.8	▲21.4	▲14.5	▲21.0	▲24.7	▲13.3(▲19.0)
建設	▲19.0	▲30.0	▲28.5	▲20.0	▲15.7	▲36.8	▲26.3(▲21.0)
製造	▲6.6	▲28.0	▲32.0	▲29.6	▲28.0	▲29.6	▲7.4(▲8.0)
卸・小売	▲16.2	▲36.1	▲21.6	▲17.6	▲28.1	▲15.1	▲30.3(▲46.8)
サービス	▲15.9	△5.8	▲6.8	△12.5	▲8.3	▲23.0	△11.5(△8.3)



【仕入単価について】

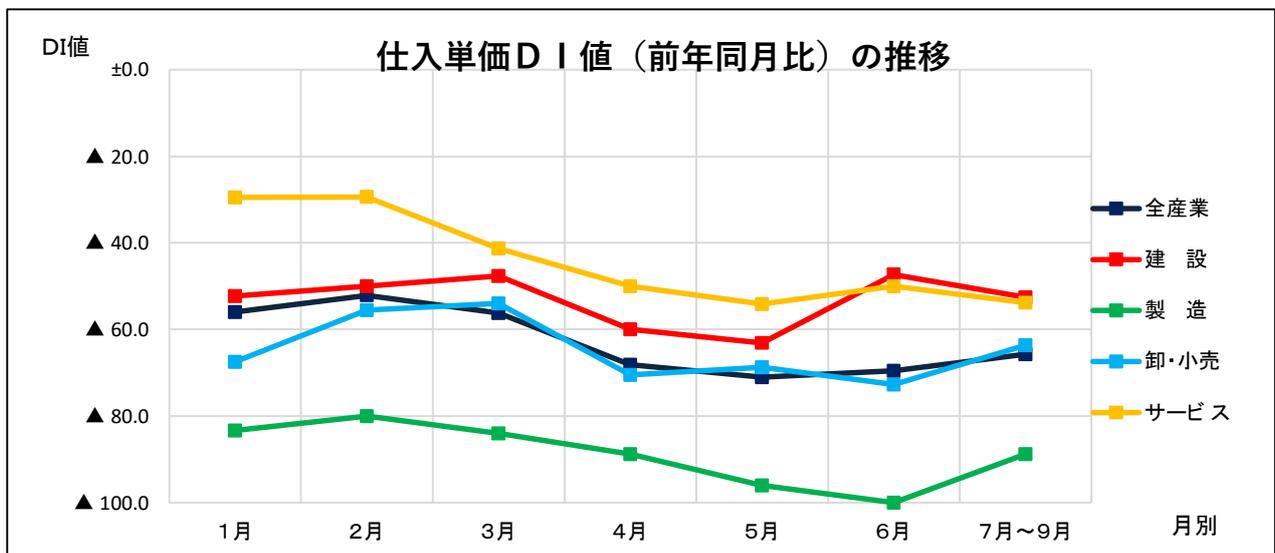
○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲69.5(前月水準▲71.0)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲65.7(前月水準▲60.0)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大する見通しである。



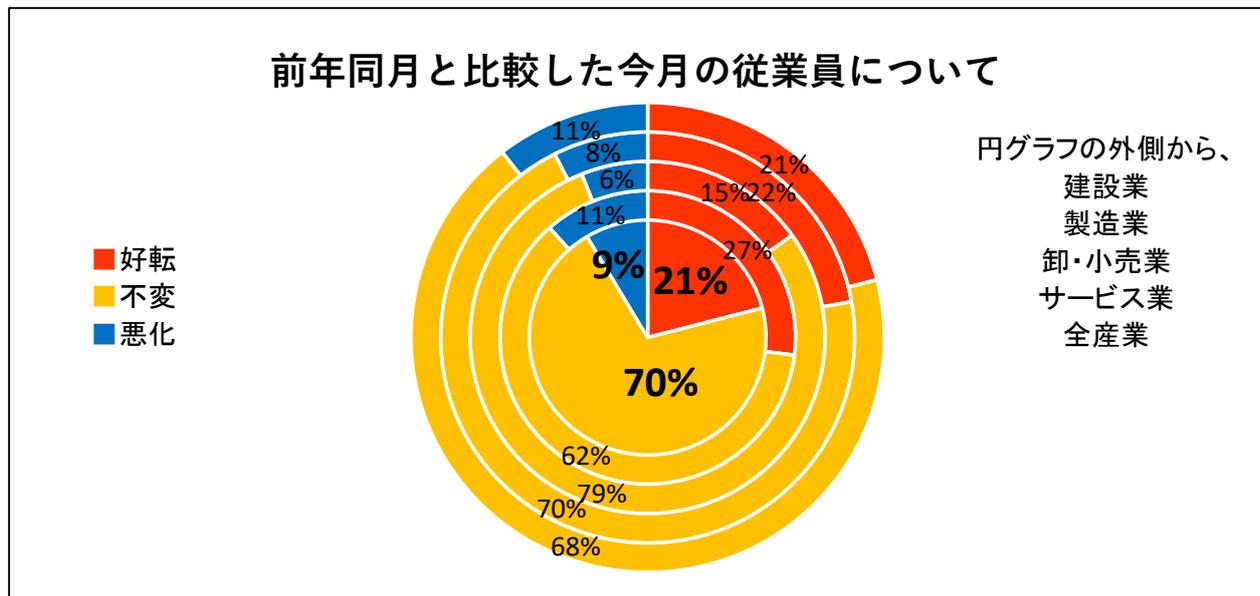
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月(6月~8月)
全産業	▲56.0	▲52.1	▲56.2	▲68.1	▲71.0	▲69.5	▲65.7(▲60.0)
建設	▲52.3	▲50.0	▲47.6	▲60.0	▲63.1	▲47.3	▲52.6(▲47.3)
製造	▲83.3	▲80.0	▲84.0	▲88.8	▲96.0	▲100.0	▲88.8(▲84.0)
卸・小売	▲67.5	▲55.5	▲54.0	▲70.5	▲68.7	▲72.7	▲63.6(▲71.8)
サービス	▲29.5	▲29.4	▲41.3	▲50.0	▲54.1	▲50.0	▲53.8(▲29.1)



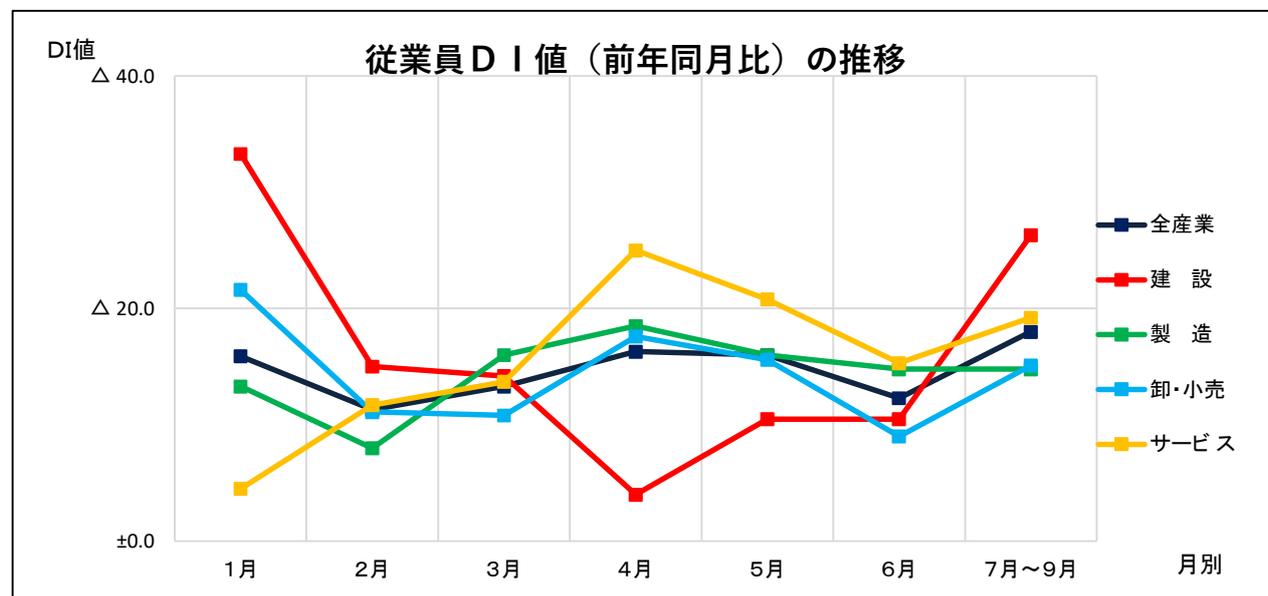
【従業員について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.3(前月水準△16.0)となり、プラス幅が3.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.0(前月水準△18.0)となり、プラス幅が2.0ポイント拡大する見通しである。



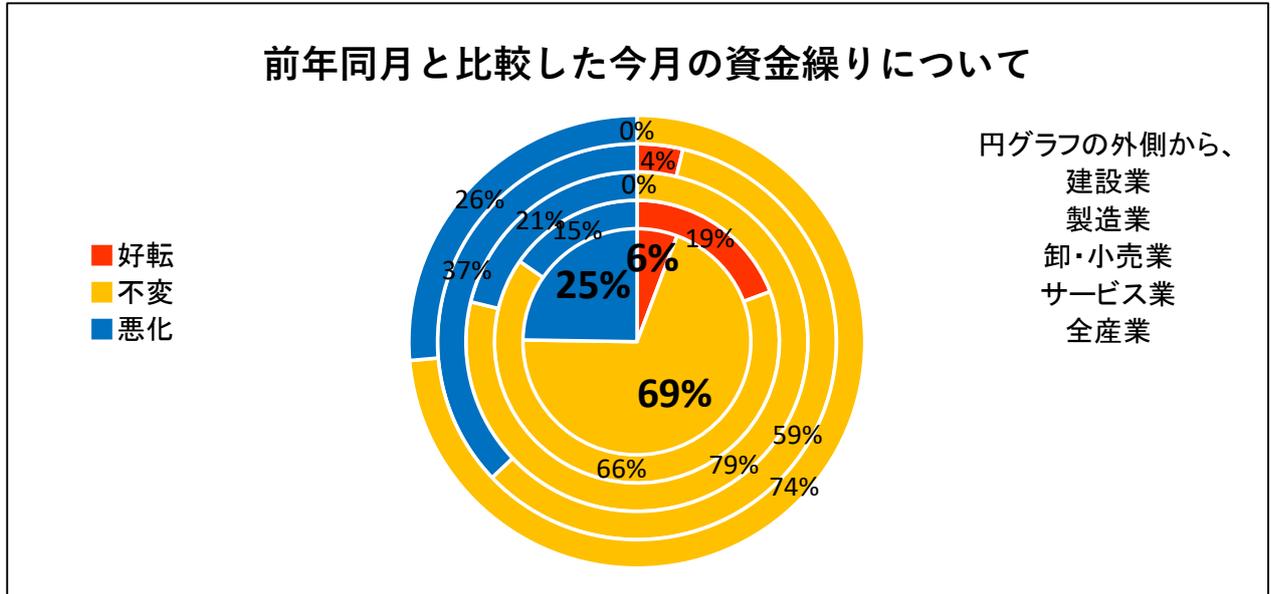
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月(6月~8月)
全産業	△15.9	△11.3	△13.3	△16.3	△16.0	△12.3	△18.0(△16.0)
建設	△33.3	△15.0	△14.2	△4.0	△10.5	△10.5	△26.3(△21.0)
製造	△13.3	△8.0	△16.0	△18.5	△16.0	△14.8	△14.8(△12.0)
卸・小売	△21.6	△11.1	△10.8	△17.6	△15.6	△9.0	△15.1(△12.5)
サービス	△4.5	△11.7	△13.7	△25.0	△20.8	△15.3	△19.2(△20.8)



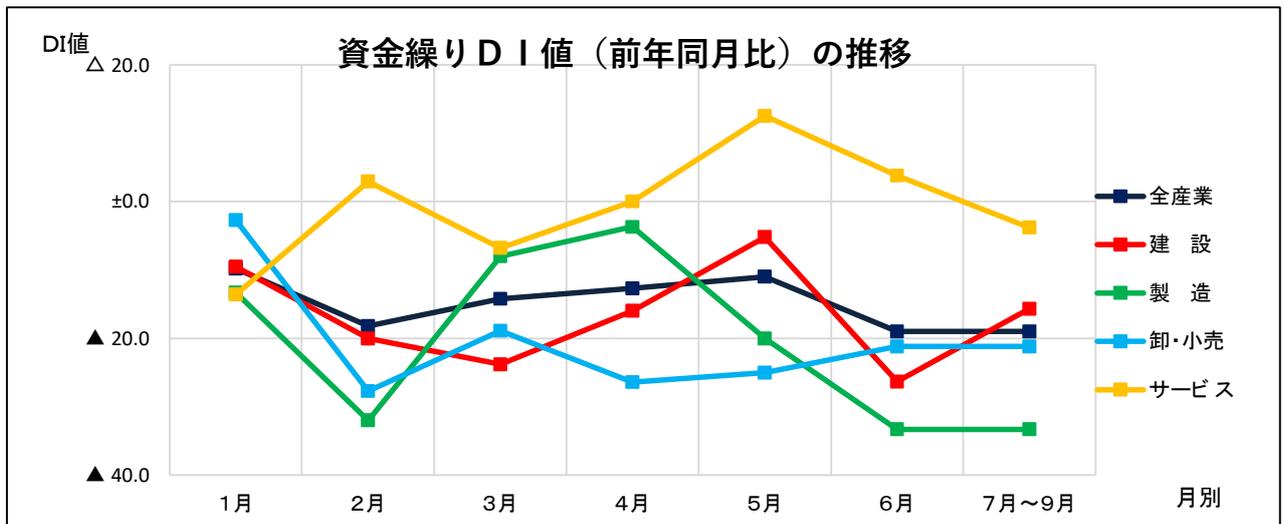
【資金繰りについて】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.0(前月水準▲11.0)となり、マイナス幅が8.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.0(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が4.0ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月(6月~8月)
全産業	▲9.8	▲18.2	▲14.2	▲12.7	▲11.0	▲19.0	▲19.0(▲15.0)
建設	▲9.5	▲20.0	▲23.8	▲16.0	▲5.2	▲26.3	▲15.7(▲10.5)
製造	▲13.3	▲32.0	▲8.0	▲3.7	▲20.0	▲33.3	▲33.3(▲16.0)
卸・小売	▲2.7	▲27.7	▲18.9	▲26.4	▲25.0	▲21.2	▲21.2(▲28.1)
サービス	▲13.6	△2.9	▲6.8	±0.0	△12.5	△3.8	▲3.8(±0.0)

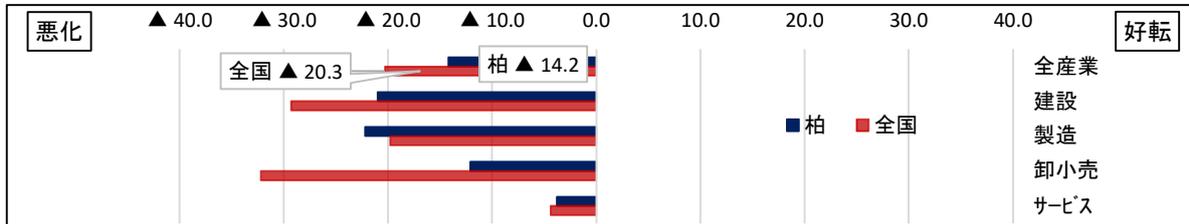


# 全国（CCI-LOBO）との比較

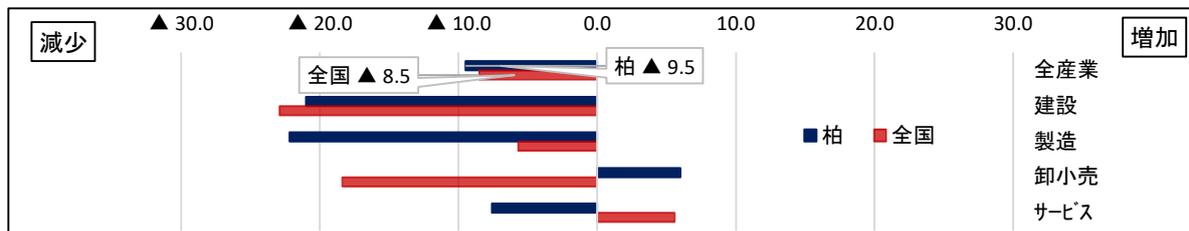
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

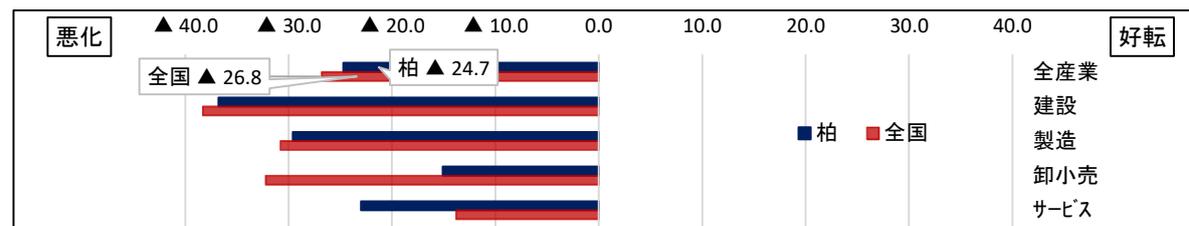
### 【業況DI】



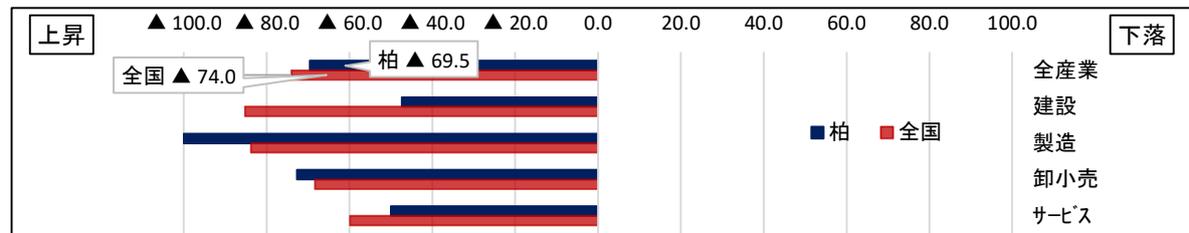
### 【売上DI】



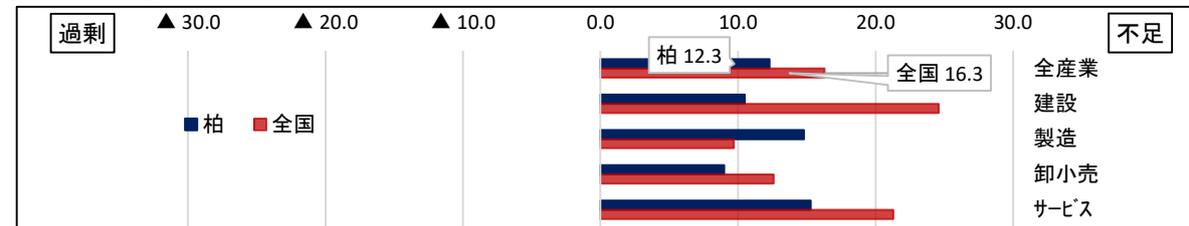
### 【採算DI】



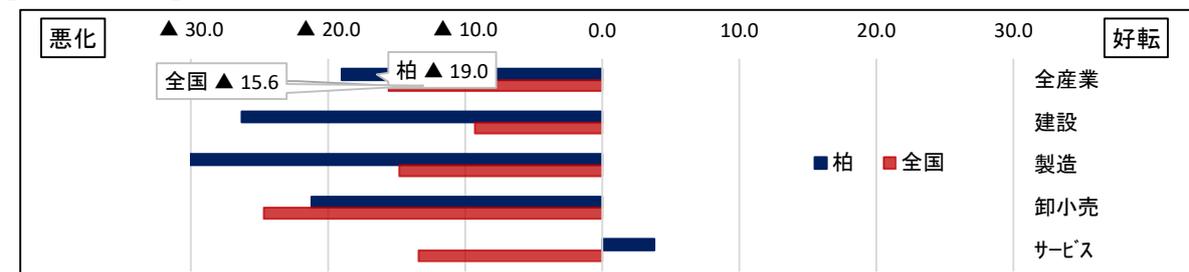
### 【仕入単価DI】



### 【従業員DI】



### 【資金繰りDI】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	仕事量が少ない。材料の高騰と職人不足が問題。	土木工事業
	若い従業員の定着は非常に難しい。長年従事している従業員の年齢は上がるばかりではあるが、仕事に明るいため 完成の日にちに支障はない。仕入価格については、今年に入り7月には4回目の値上がりが見込まれているため、ますます利益幅に影響が出る見込み。	とび
	畳縁バッグのベイスネットショップを立ち上げて10か月。ベイスからの購入はゼロですが、お問い合わせのメールや電話から商談成立がちらほら。ネット通販がカタログの機能を果たしてくれていることに感謝。	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	材料仕入単価が上昇した分をすべて価格に反映することは、顧客になかなか理解してもらえない。ありがたいことに受注は増加しているが、仕入も増加しているので資金繰りは苦しい。	金属製品
	材料仕入の高騰により、売上が前年より上がっても粗利率が下がっている。	金属製品製造業
	海外からの受注が堅調に推移、円安の影響で今後も海外需要が増える可能性あり。但し海外からの購入品は値上げとなるので単純に業績が好転するとは考えていない。	機械・同部品製造業
	電気、ガスと言ったユーティリティの単価上昇が大きく響いている。新型コロナウイルスがそのまま落ち着いて、売上が伸びたとしてもユーティリティ単価上昇と仕入単価上昇が厳しい。さらなる生産性向上を考えていく必要がある。	酒類製造業
	コロナ禍、半導体不足、原材料の高騰とトリプルパンチにより、業況は悪化の一途を辿っております。	電子応用装置製造業
	コロナの影響で落ち込んでいる化粧品容器の受注に回復傾向がまだ見られない。仕入単価は値上がりが続くし、現時点で利益上昇機運はほとんどない。年度後半には動くとの情報もあるが確証は得られていない。	プラスチック加工
	半導体及び上海ロックダウンの影響により、サプライチェーンの断絶、受注ストップ、減産に追い込まれている。	金属素形材製品製造業
	原油、原材料、仕入価格の高騰が止まらず、資金繰りに悩むことが多い。	印刷業
	売上はようやく上向き。しかし、原燃料価額が高騰しており、利益ベースでは好転していない。生産部門での人手不足により残業が増加している。熱中症対策で飲料水の配布を開始。	鉄鋼業
	コロナ、原油高、ウクライナの影響後、円安の影響が顕著に出てきており、原材料の更なる値上げが出始めている。年初の価格転嫁もまだ決着できていない中、秋に向けて価格動向があわただしくなる見込み。一方、コロナによる営業活動の制限は収まりつつあり、リモートで不足していた対面の営業活動に注力し、情報収集の改善を図りたい。	化学工業
	売上高の減少要因としては、コロナの蔓延による景気悪化もありますが、このところロシア・ウクライナ情勢の影響で原材料の高騰による各社の採算悪化が大きく影響している。	一般産業用機械・装置製造業
	新型コロナウイルスの発生から3年目となり発生当初の緊急事態宣言と共に、車検の3か月延長があったために、4月、5月の車検部品の売上がコロナ禍前に比べ減っている。最近では中国の生産・物流の遅れや混乱の為に、一部の部品の納入遅れや材料不足による欠品が少しずつ増えている。燃料費、電気代の上昇も重なり収益に影響が出てきた。	自動車付属品製造業

## 【業種別】業界内トピックス

	長引くコロナ自粛により、サークル活動の停止と頻繁に行われていた会食がほぼゼロになり、社内に閉塞感が漂っている。経営者が旗を振って再開させるタイミングが難しい。	業務用機械器具製造業
	半導体不足により生産が出来ない。部品単価が大幅アップ。	レーザ装置製造業
卸・小売業	原材料の大幅な価格高騰により仕方なく商品価格を変更したが、これ以上値上げする事は厳しく頭が痛い。	洋菓子店
	テナントを取り巻く環境としては原材料費高騰、世界的な物流の不安定さによる商品遅延により、ファッションや食関連の売上が不安定。それに伴い、アフターコロナの流れがあるものの、テナント経営がまだ本回復には至っておらず、積極的な投資にはつながらない状況。	各種商品小売業
	値上げ前の買い込みが見られ、今後の買い控えが心配。	各種商品小売業
	父の日が予想より良かった。	洋菓子店
	売上自体は好調だが、売上の内訳として、地元の飲食店は限られた方しか市場で買い物せず、卸売市場を介さない流通の変化を大きく感じる。好調の要因はスーパーなど量販店の商品の拡充、輸出、ネット卸売、直販での一般顧客向け商品の売上増加など。ロシア・ウクライナ問題から物価上昇が続き。包装資材や送料等の値上げが止まらない。海苔の原料自体の仕入は終わっているのに、一部の商品について値上げせざるを得ないことになると思う。	農畜産物・水産物卸売業
	コロナ規制も緩和傾向にあり、リモートからのより戻しも影響し、スーツ等外出着の需要回復が見られる。一方で、原油高・円安に起因する食料品値上がりのニュースに家計防衛ムードも出てきて、食物販などで買い控えの傾向が出ている。	百貨店
	仕入コストの上昇継続、尋常でない納期遅延が継続し、この先1年は改善しないと思われる。業態変更も視野に入れないと非常に厳しい。	自動車卸売業
	値上げムードで購買欲が減少している気がします。	子供用品卸・小売
	コロナの影響で落ち込んでいた飲食店向けの販売が回復傾向にある。同時に、この2年で世の中の消費者動向としてECサイトでの食料品購入の需要が激増している影響から、実店舗への客足が減少傾向にあった（徐々に回復の兆しあり）。弊社は、農家が主な仕入先で、ロシア・ウクライナ情勢の悪化による肥料、燃料、資材などの値上げの影響を大きく受けている農業者からの仕入は今後上昇するものと考えている。生鮮野菜は、消費者がわずかな値上げにも敏感に反応するため、価格転嫁の際は価格上昇の理由をしっかりと説明し、顧客の理解を得たいと考えている。	青果小売業
	ロシア、ウクライナ情勢の影響が大きいと思う、それと同時に円安も大きい。	鮮魚小売業
	気温上昇により、お客様の動向が午前と夕方以降に分断されている。夏物衣料などは好調に推移している。外食にシフトした分、食品の客数が伸び悩んでいる。食品の値上げについては、お客様は非常に敏感になっている。	大型小売店
	毎回向こう3か月間の先行き見通しは売上が落ちる予想にしていますが、何だかんだで前年比+で終われそうです。運送業界は新品の出荷不足、漁業の不漁等で全般的に低調な気がします。僕ら物流業界もだんだんと低調になっている気はします。上海ロックダウンの影響が早く完全になくなって欲しいです。	産業機械器具卸売業
急激な仕入れ価格の上昇、人件費上昇が損益に影響を及ぼす程度まで大きくなっている。	日本料理	
全ての仕入単価が半年の間に2、3度値上げした。個人の店としては、値上げしたいが、お客様が減ってしまうのではないかと心配である。	食堂・レストラン	
売却依頼の問い合わせは堅調。購入への反響は減少している。不動産価額が値上がりしているので今後は懸念される。	不動産管理業	

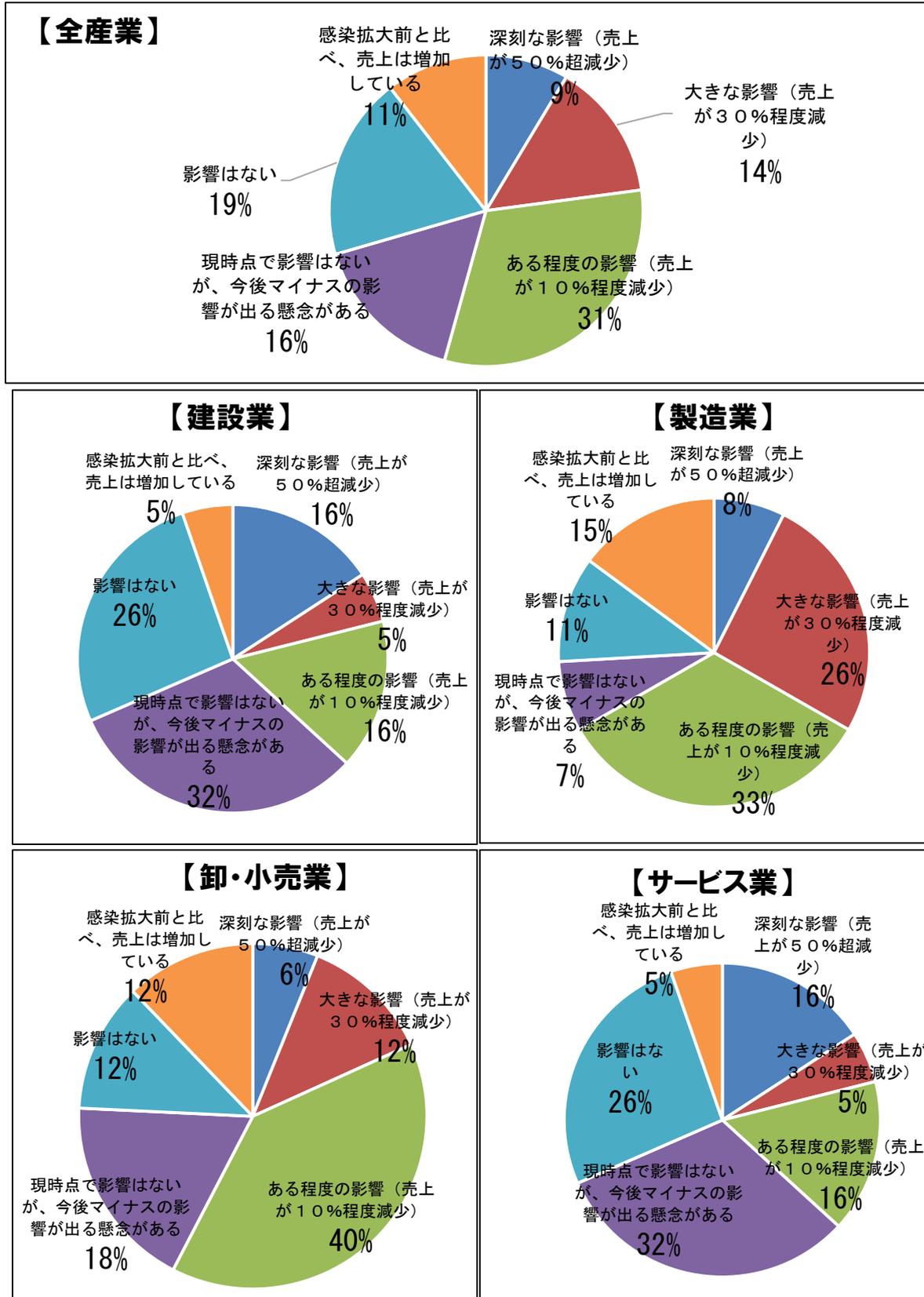
## 【業種別】業界内トピックス

サービス業	夏期講習の募集を開始したが、全科目受講する生徒と、ほとんど受講しない生徒の両極端に分かれているように感じる。親の収入の影響もあるのではないかと。また、ようやく新規入会者の動きが出てきたが、3年前のコロナ以前の同時期と比べるとまだまだ鈍いと言わざるを得ない。	学習塾
	光熱費の上昇、物価高、猛暑が経営に悪影響を及ぼしている。昨年、一昨年はコロナバブルにより売上が拡大したが、今年も感染拡大前と比べて110~115%の売上となる見込み。	ゴルフ練習場
	政府の無対策を感じる。	広告代理業
	いろいろがあった中において、コロナの影響により増加した債務の後処理が最大の問題である。	各種学校
	東京の緊急事態宣言が解除されてから集客が落ち、例年より売上が落ちた。ただ昨年はリニューアル後のご祝儀集客もあったことから単純な比較はできず、ある程度想定されていたので従業員を減らすなど工夫した。あとは原価上昇に伴い、メニューの見直しを行なった。今後は猛暑で来店客が減るので、駅前デパートへの短期出店、キャンプ場への卸売を増加して調整している。	飲食店
	円安で更に業績悪化に追い打ちをかけられている。	運輸に付帯するサービス業
	固定金利の更新で、じわり上昇。	不動産賃貸・管理業
数社の顧問業を兼業しているがアドバイス業務専念のため景気動向に左右れず安定。	専門・技術サービス業	

附帯調査結果

# 新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



# 調査要領

調査期間

令和4年6月21日 ～ 令和4年7月4日

調査対象

柏市内151事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	151	105	69.5%
建設	33	19	57.6%
製造	37	27	73.0%
卸・小売	45	33	73.3%
サービス	36	26	72.2%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				